

環境と人にやさしい ゴルフとゴルフ場

第5回

人間と 自然が共生する理想郷

川崎国際生田緑地ゴルフ場

総支配人 海野 芳彦



●大都市川崎にある公営ゴルフ場

川崎市は、市域面積約145平方キロ、人口約135万を超え、大阪、東京都区部に次ぐ高い人口密度を有する大都市である。東京都を境に流れる一級河川多摩川に沿って発展し、東京湾から多摩丘陵に至る海馬（タツノオトシゴ）にも似た細長い地形が、それぞれ固有の生活圏と文化圏を生じ、大都市では他に類を見ない立地特性（沿川距離約25km）を有する都市である。

昭和27年に誕生した川崎国際ゴルフ場（以下、川国）は、米軍GHQとの交流といった観点から、わが国で始めて【国際】という名称を冠に井上誠一氏設計監修により造成された名門コースである。

嘗ての名門「川崎国際ゴルフ場」は、多摩丘陵特有の急峻な地形に赤松や雑木林、そして動植物の宝庫でもある典型的な里山の景観をなしていたが、不思議なことはこの景観が総て消滅し、幾つかのゴルフ場にのみ存在しているという事実である。

理由は明快、ゴルフ場は下草刈り、雑木林の伐採と再生など適度な人為的干渉が結果として原風景、更には多様な生物の生息環境を守ってきたわけである。

●生田緑地という都市公園に存在するゴルフ場

都市公園施設としてのゴルフ場は全国で一つ、川国だけである。生田緑地は川崎市を代表する都市計画緑地で、計画面積は約179ha、そのうち約三分之一（59ha）が都市公園施設としてのゴルフ場であり、川崎市が自ら設置した公園の一施設（都市公園法第2条第2項5号）で、自ら設置管理する都市公園であることを告示、つまり、ゴルフというスポーツを通して緑地としての効用を全うすることを自治体が宣誓した施設である、と言えるのである。

●環境と景観の再生（今後あるべきゴルフ場の使命）

多摩丘陵の面影を今に留める川国は現在、人間と自然が共生する理想郷を目指して様々なプロジェクトが進行している。

1、人間と自然が共生する理想郷

①ゴルフ場の景観再生計画

ここでいう景観の再生とは、昭和27年開設から56年の歳月が歴史を載せ落ち着きを醸し出す一方で、頂部の赤松が姿を消し巨大化した雑木林に常緑広葉樹が入り混じる混交林の様相を呈し、放置された林床をアズマネザサが覆い尽くした結果、ゴルフコース特有のビスタ（線としての美しさ、

見通し景観) が遮られる等、植生の変化に対応することである。

開設当時の川崎国際は、高名な井上誠一氏が明るい雑木林に赤松を頂いた多摩丘陵の原風景を巧みに利用し造成した手作りのゴルフ場である。同氏はゴルフ場プランナーの最高峰といわれるが、一方で一流のランドスケープアーキテクト(造園家)であったに違いない。なぜなら、そもそもゴルフ場はイギリス式風景庭園であり、井上氏はその設計に当たり、白砂青松と言われる我が国を代表する赤松、黒松をこよなく愛し、自然景観を巧みに利用した設計手法に定評があり、本ゴルフ場の造成でも、その景観を最大限に活かした整備がなされているからである。

この景観再生計画は、CO₂対策、生物多様性の保全、循環型エネルギーの再生等の環境改善を最重点とした**人間と自然が共生する理想郷**づくりを昭和30年代の景観再生として位置づけているが、このことは、地球環境の危機が叫ばれる今、わが国のもつ現代科学の英知による自然エネルギーの活用と昭和30年代以前の伝統的エネルギー循環(里山文化)こそが、多様な生物の生息空間の確保に繋がる【豊かな緑地環境の創出】との考え方に立って始動したものである。



▲17 番ホールにおける池とクリークの風景

折しも、本年は井上誠一生誕100年、川国はこの計画をはじめ、環境配慮型クラブハウス新築に向けた実施設計が進められるなど、環境をキーワードに公共のゴルフ場があるべき姿を追い求める年となる。

②クリーク(小川)づくりは景観とビオトープの再生

『景観10年、風景100年』という言葉のとおり、景観の再生目標年次を開設10年後の昭和37年(昭和30年代の景観再生)としたが、このクリーク作りは、いつしか暗渠化されていた水路を往事の景観として再生すべく、敢えて直営職員による手作りにこだわり、コースの美しさや戦略性の配慮に加え環境配慮型ビオトープ(多様な生物の生息空間)として整備したものであり、絶滅危惧種のホトケドジョウ(既存)や源氏ボタルの乱舞を期待するとともに、やがては川国の名物コースとならんことを夢見て整備したものである。

2、地域との連携

緑のボランティア団体「飛森谷戸(とんもりやと)の自然を守る会」との交流

前述のとおりゴルフ場には、源氏ボタルやホトケドジョウ、キンラン、ギンラン、タマノカンアオイ、ハルリンドウやキツネのカミソリ、ホンダタヌキやモグラといった希少な動植物が生息している。

ゴルフ場の南、宮前区初山に位置する里山(通称飛森谷戸)を中心にこうした動植物が生息する緑地の保全活動を行っている地元のボランティア団体がある。

この団体は、雑木林や竹林の管理、炭焼きやホテルと餌のカワニナ(ホテルの餌)の放流等を行っており、この度のビオトープの再生など地域ボランティアとの交流により、ゴルフ場がもつ自然観を地域住民と共に享受できる関係が構築されている。

3、市民開放

川国では、春、夏、冬と年に数回の市民開放を実施している。

春は桜の開花時期に合わせ4月上旬に、夏は多摩区役所と合同で子供たちの夏休みに合わせ『ゴルフ場で遊ぼう』と題した様々な遊びを体験するイベントを実施している。

冬の開放はユニークな仕掛けで、『ゴルフ場で雪と遊ぶ』をテーマに近隣幼稚園、保育園の園児たちがスキー遊び等に興じるものだが、当日の朝でなければ判断できない雪でのクローズなので、当方の職員による連絡で遊びにくる（スクールバス）、という仕組みになっている。

子供たちの目の輝きは当然だが、先生方が夢中になっている光景も一興である。

ゴルフ場は日常の生活空間から乖離した夢の世界、つまり大人のディズニーランドである。この夢の世界は、美しい里山景観と多様な動植物の生息空間であり、ひよっとしたら私たちのDNAに残る原風景と心象風景がミックスされた理想郷なのではないか。



▲緑のボランティア団体の自然観察会